

特集にあたって

札幌麻生脳神経外科病院 飛驒一利

脊椎脊髄腫瘍の中でも悪性腫瘍は外科治療のみによる根治は難しく、術後にどのような適正な後療法を行うかが問題となる。近年さまざまな後療法の option が提示されている。後療法の中では、まだ標準化された治療でないものも多く、また高価なものもあるが、外科治療では摘出不可能に終わった悪性腫瘍に対するセカンドライン、サードラインとなる後療法を考える指標となると思われる。

尾原裕康先生には、転移性脊椎腫瘍に対する手術の適応、除圧固定、椎体形成術など、スタンダードな外科治療について述べていただいた。

鬼丸力也先生には、悪性脊椎脊髄腫瘍に対する放射線治療を耐用線量、諸家の報告、さらに radiation cordotomy について述べていただいた。

伊藤 慶先生には転移性脊椎腫瘍に対する定位放射線治療 (SBRT)、特に「手術と SBRT の併用療法」について述べていただいた。

出水祐介先生には、原発性悪性脊椎腫瘍、とりわけ脊索腫・軟骨肉腫に対する陽子線治療について述べていただいた。

今井礼子先生には、重粒子線による悪性脊椎肉腫に対する治療成績について述べていただいた。2016 年から保険収載された本治療法の詳細が述べられている。

新田雅之先生には、光線力学的療法 (PDT) のメカニズムと特に悪性脳腫瘍における臨床成績について述べていただいた。

杉山一彦先生には、グリオーマの抗がん剤として最も使用されることの多いテモゾロマイドについて、その有用性と歴史について述べていただいた。

村田英俊先生には、分子標的治療、特に血管新生因子 (VEGF) に対するモノクローナル抗体によるグリオーマ治療について、再発 GBM、脊髄グリオーマ、脊髄血管芽腫、NF 関連脊髄上衣腫での臨床成績を述べていただいた。

以上、悪性脊椎脊髄腫瘍に対する治療の現段階での到達点および将来の可能性について言及していただいたが、読者の皆さんにとって有益な情報になれば幸いである。なお、本特集の執筆者の選考のうえで、北海道大学脳神経外科の寺坂俊介先生のご助言に深謝する次第です。